

中 学 校

平 成 7 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

美 術

東 京 都 教 育 委 員 会

平成 7 年度

教育研究員名簿（美術）

区市町村名	学 校 名	氏 名
江 東	深 川 第 六 中 学 校	◎ 小 澤 功
品 川	大 崎 中 学 校	藤 田 敦 子
練 馬	石 神 井 東 中 学 校	○ 江 川 誠 志
足 立	第 八 中 学 校	小 泉 薫
葛 飾	新 小 岩 中 学 校	大 平 新 作
江 戸 川	清 新 第 一 中 学 校	太 田 幸 司
八 王 子	第 四 中 学 校	市 場 陽 一 郎
立 川	立 川 第 五 中 学 校	土 肥 尚
保 谷	ひ ば り が 丘 中 学 校	駒 井 美 貴
三 宅	三 宅 中 学 校	未 至 磨 明 弘
八 丈	大 賀 郷 中 学 校	高 山 健

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 教育庁指導部中学校教育指導課指導主事 大 島 克 己

研 究 主 題

生徒の自ら表現する意欲や、多様な表現を引き出す授業の工夫

目 次

I	主題設定の理由	1
II	研究の構造	1
III	研究テーマー 1 『ワークシートを活用し、イメージや発想を伸ばす指導の工夫』	2
	授業研究(1)「見ることばをつくろうーマーク・シンボル」	3
	授業研究(2)「パソコンを利用して創作文字（絵文字）をつくる」	5
	授業研究(3)「気分はトニー・クラッグ」	7
	授業研究(4)「点描による想像画」	9
	授業研究(5)「粘土による共同制作」物語の一場面をつくる	11
IV	研究テーマー 2 『生徒のコミュニケーションを活発にする鑑賞の授業の工夫』	13
	授業研究(1)「現代美術館に行こう」	14
	授業研究(2)「美術館で鑑賞した作品を再現しよう」	15
	授業研究(3)「校外に設置した現代美術作品を鑑賞しよう」	17
V	研究テーマー 3 『自己評価カードを使った励ましの指導の工夫』	19
	授業研究(1)「人物画・クロッキー」	20
	授業研究(2)「木版画・友達を描く」	22
	授業研究(3)「自己評価カードを使った人物画の授業」	23

I 主題設定の理由

美術は感性を育てる造形教科である。そのための必要な能力として、既成のイメージにとらわれない、柔軟で自由な発想力の育成が重要なものの一つとなる。

美術の授業において自由な発想力を育てるためには、できあがった作品で評価をするのではなく、制作活動の過程を重視し、その中でも特にイメージをたくさん出させるための授業の設定が必要である。

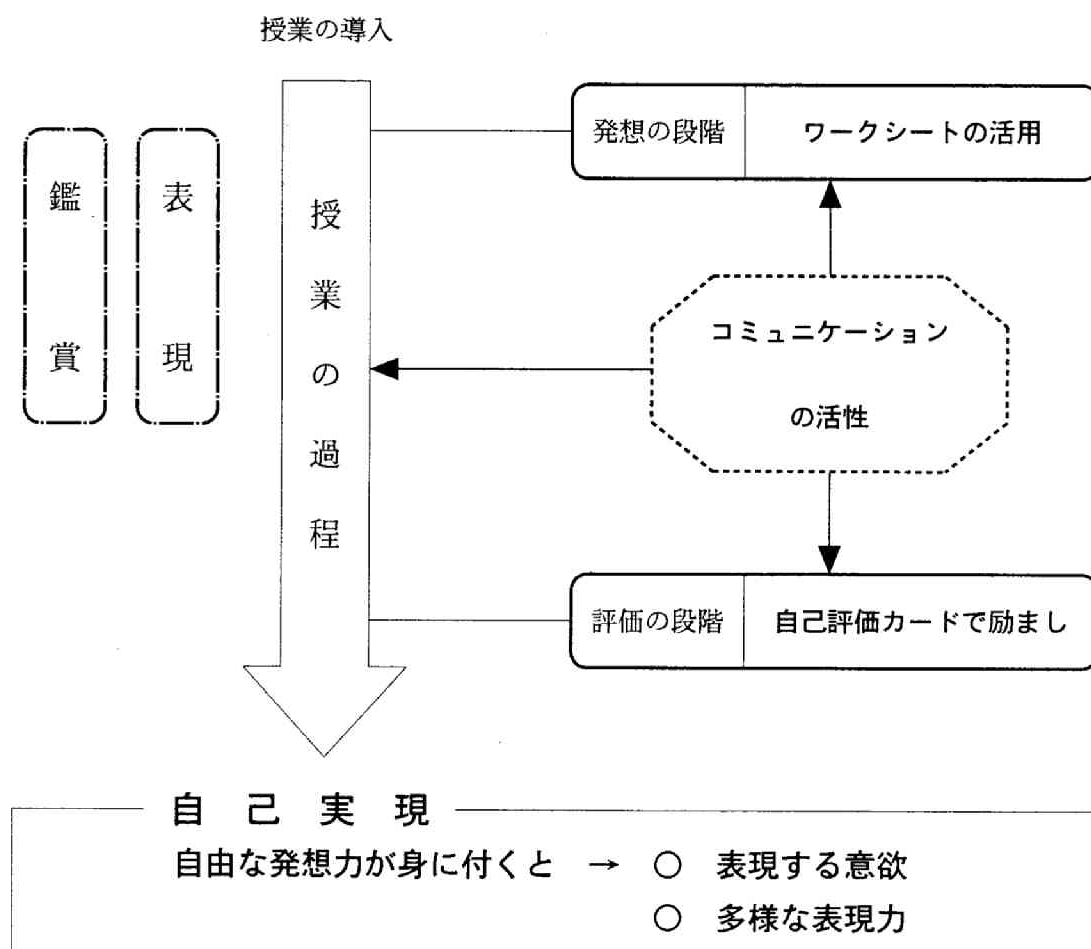
そこで本研究においては、『生徒の自ら表現する意欲や、多様な表現を引き出す授業の工夫』に主題を設定し、次の三つの研究テーマから研究を進めることにした。

研究テーマー1 「ワークシートを活用し、イメージや発想を伸ばす指導の工夫」

研究テーマー2 「生徒のコミュニケーションを活発にする鑑賞授業の工夫」

研究テーマー3 「自己評価カードを使った励ましの指導の工夫」

II 研究の構造



Ⅲ 研究テーマ 1 『ワークシートを活用し、イメージや発想を伸ばす指導の工夫』



1 研究テーマ設定の理由

美術に対して苦手意識をもつ生徒は、表現意欲はあっても発想や構想の段階でつまづいた状態が続く傾向が強く、問題解決への糸口をつかめずに悩んでいることが多い。理由としては、固定概念から抜け出せず、完成までの具体的なイメージをつかめないことや、完成までの計画を立てられないことなどが挙げられる。そこで、生徒の発想の過程に焦点をおいたワークシートを活用することによって、イメージや発想を豊かにし表現する意欲を高めていくことができる考えた。

2 研究の仮説

従来のワークシートは、一枚の用紙の中で完結してしまうタイプのものが多く、多様な表現と相反する方向に向かう可能性が大きかった。そこで生徒の発想段階の過程にいくつかの作業領域に分けたワークシートを活用することで、生徒一人一人から多様な表現を引き出し、作品の質を高めていくことができると考えた。このワークシートを活用することで、以下のような効果が上がると考えられる。

- (1) アイデアが思いつかずに悩んでいる生徒に、発想の手がかりを与えることができる。
- (2) 有効な教師の発問をあらかじめ準備できる。
- (3) 授業のねらいや流れをつかむことができ、作品完成までの計画を立てやすい。
- (4) 固定観念から抜け出せずにいる生徒でも、アイデアの深まりを期待できる。
- (5) 思考のルート付けができ、つまづいたところで戻り発想の手順を確認することができる。
- (6) シートの中に自己評価・感想と教師との連絡欄を設けることで、コミュニケーションを大切にし、個々の課題ごとに細かいアドバイスができる。

3 仮説検証の方法

上記の仮説を検証する方法として、以下の3つの観点で検証する。

- (1) ワークシートを使用した場合の効果を、生徒アンケートの自己評価から数値化する。
- (2) アイデアスケッチの数の変化を比較する。
- (3) アイデアスケッチから完成に至るまでの過程から、作品の質的な変容を見てとる。

授業研究－(1) 「見ることばをつくろう ～マーク・シンボル～」

(1) 指導のねらい

■ 形と色で相手にものごとを伝達するビジュアルコミュニケーションを題材に、発想することの楽しさと伝達に適した形や色の造形を追求させる。

■ ワークシートを使用することによって、多様な発想と意欲を引き出す。

① 発想を引き出すプロローグとしてのシート	わくわくプロローグ
② 発想を引き出すための資料（づくり）としてのシート	わくわくスクラップ
③ 発想を導き出すためのシート	わくわくシート
④ 発想を定着させるためのシート	わくわくゴール
⑤ 発想を支援するためのシート	わくわく資料・トレーニングカード

(2) 展開例

① ワークシートの利用の仕方

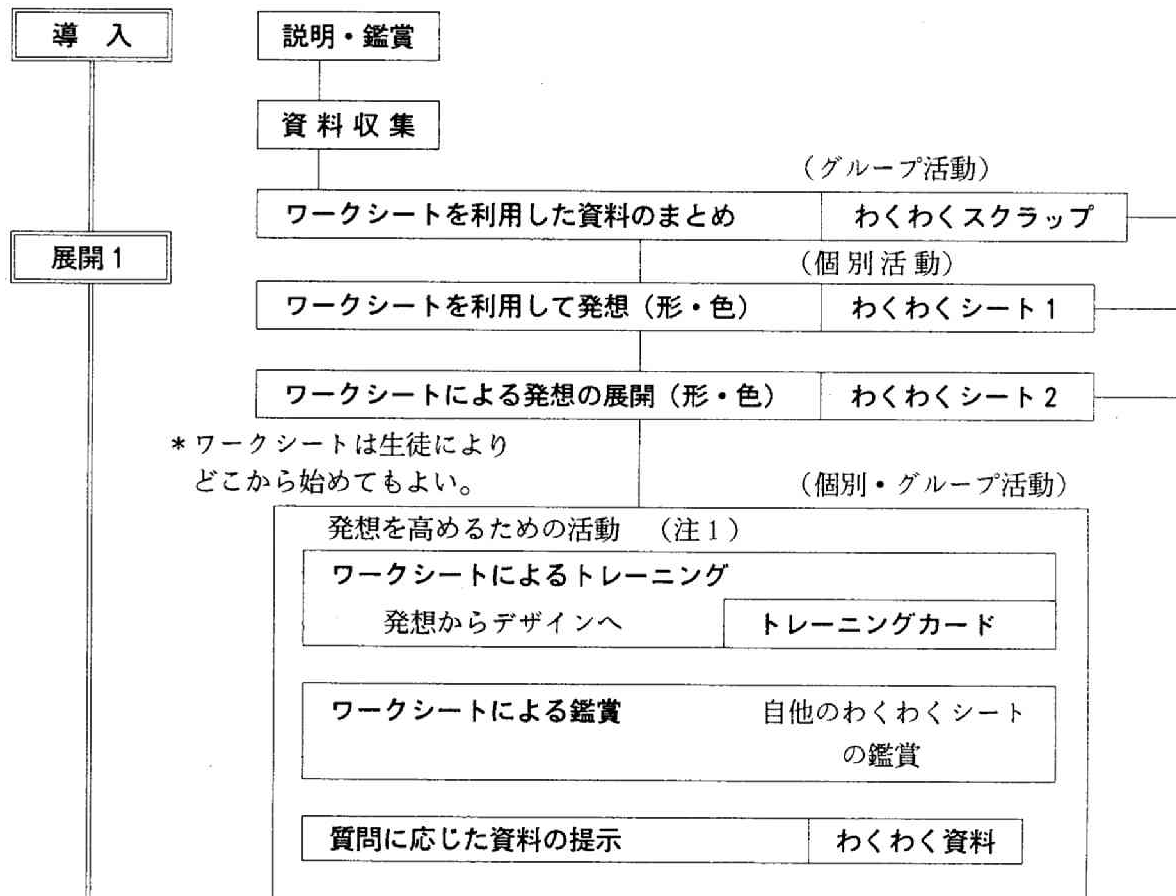
■ 全部の枠を埋めたり、段階を追わず、個に応じた利用をする。

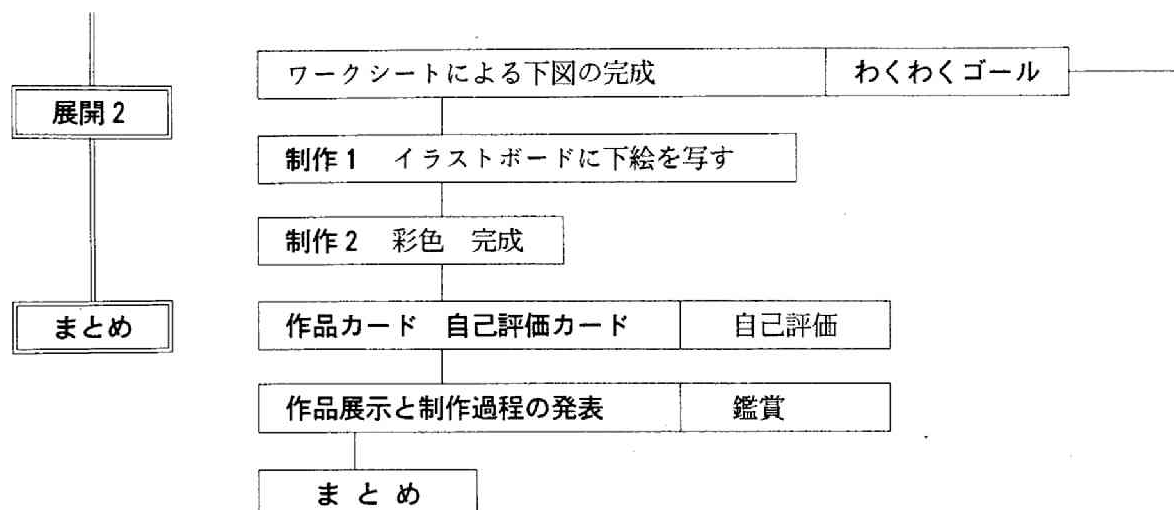
■ 必要に応じて生徒や教師がワークシートを選択したり提示したりする。

■ 発想を引き出すわくわくシートと、形や色のしくみを学習するための発想を支援するシートと切り離して考え、利用する。（注1）

■ 活動する場面を重要視し、個人の活動とグループ活動にも利用する。

② 学習の流れ （ワークシートの利用と流れ） 全10時間の計画

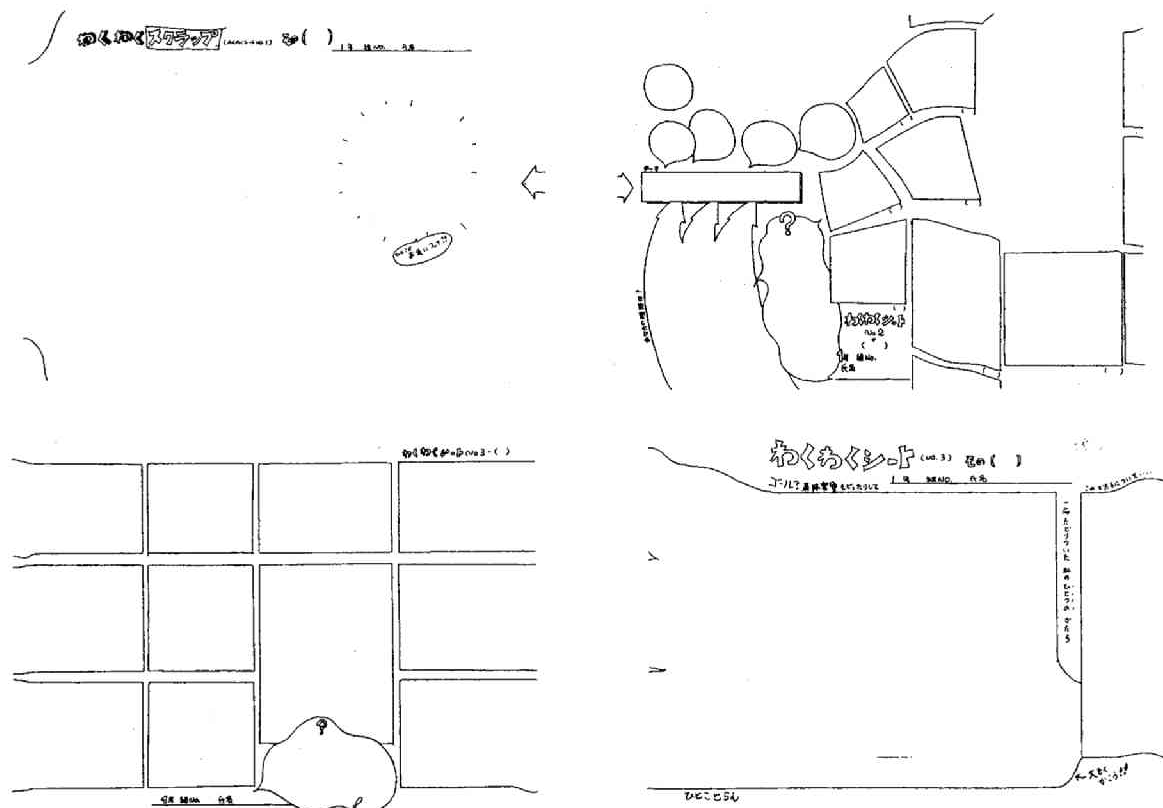




(3) 成果と今後の課題

- ① 発想の段階で多くの発想と表現を引き出せた。
- ② 発想の得意な生徒にとってはワークシートが合わないこともある。
- ③ ワークシートの大きさが合わない生徒がいる。
- ④ 今回のマークの指導ではポスター制作にもつなげることができた。
- ⑤ 生徒の自主的な活動を促すことができた。

ワクワクシート



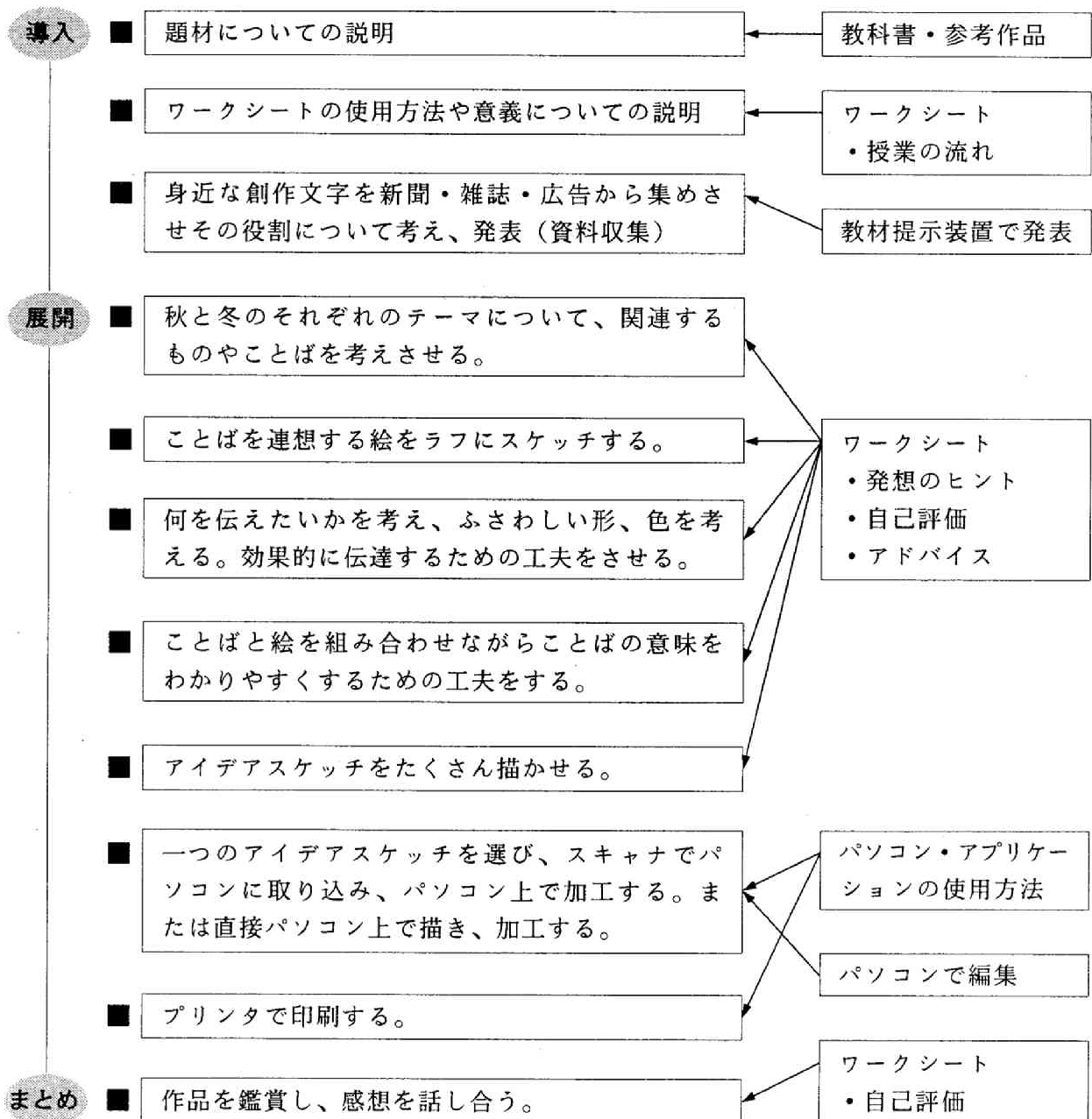
授業研究－(2) 「パソコンを利用して創作文字をつくる」

(1) 指導のねらい

- ① ワークシートを使うことにより、一つのアイデアからイメージをふくらませ、アイデアを深く掘り下げていけるような発想のしかたを学ぶ。
- ② ワークシートを使うことにより、アイデアが思い浮かばずに悩んでいる生徒やアイデアが行き詰まった生徒に発想のきっかけや方法を教え、適切なアドバイスを与える。
- ③ パソコンを利用してパソコン上で様々な加工をし、さらにアイデアの発展をめざす。

(2) 展開例 — 題材 季節を表すことばを文字とイラストを組み合わせる。

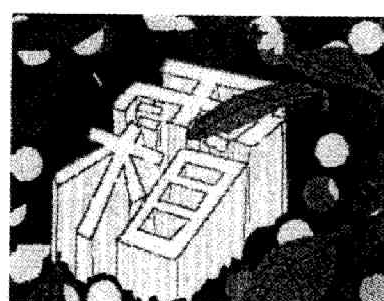
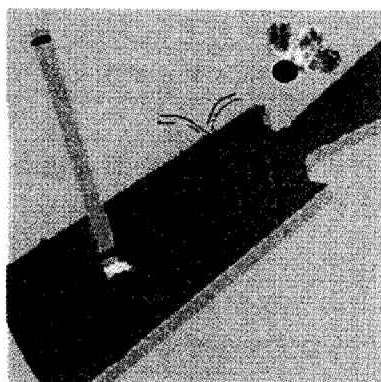
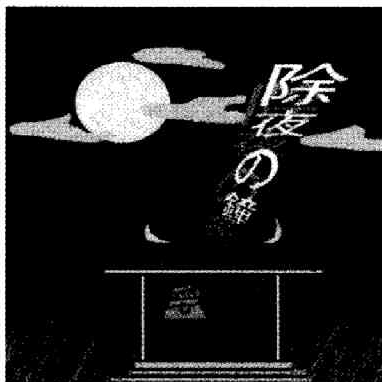
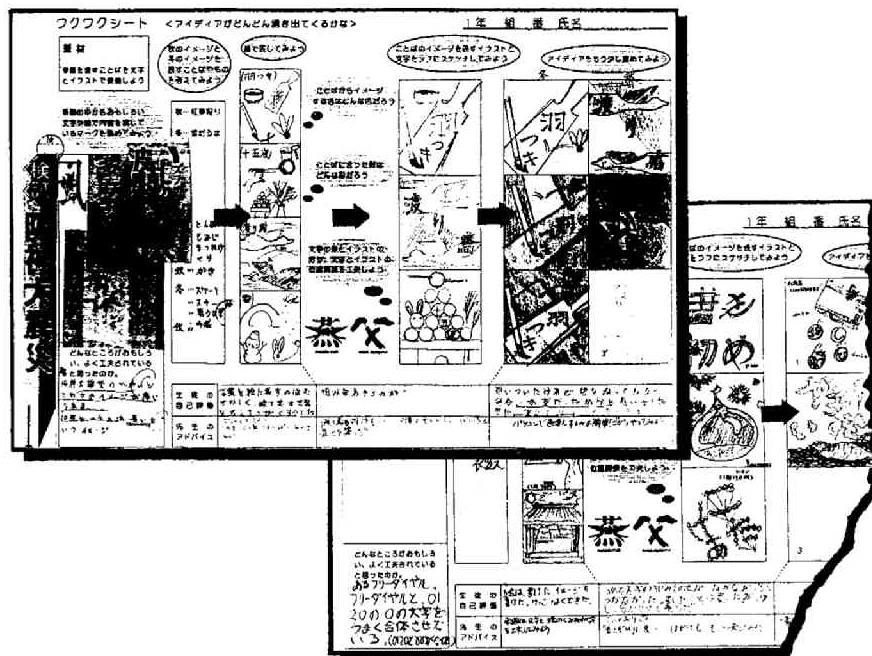
授業の流れ（総時間数 10時間）



評価

- ・テーマにふさわしい創作文字をつくることができたか。
- ・形や色を工夫して発展性のある作品に仕上げることができたか。

作品例



(3) 成果と課題

情報があふれている時代に生きる中学生だが、視覚で入ってくる情報を自分の中で消化し、そこから新鮮味のある独創的な作品を創造することは案外不得手である。ワークシートを使用することで全体としてはアイデアの進展がみられたが、意外にも発想の前段階における言語力・語彙力の部分で行き詰まった生徒が多かった。しかし、パソコンを有効活用することでスケッチに様々な変化が生まれ、今までは考えることはできても技術的に困難だったことがディスプレイ上で実現でき、パソコン上でアイデアを発展させることができた。

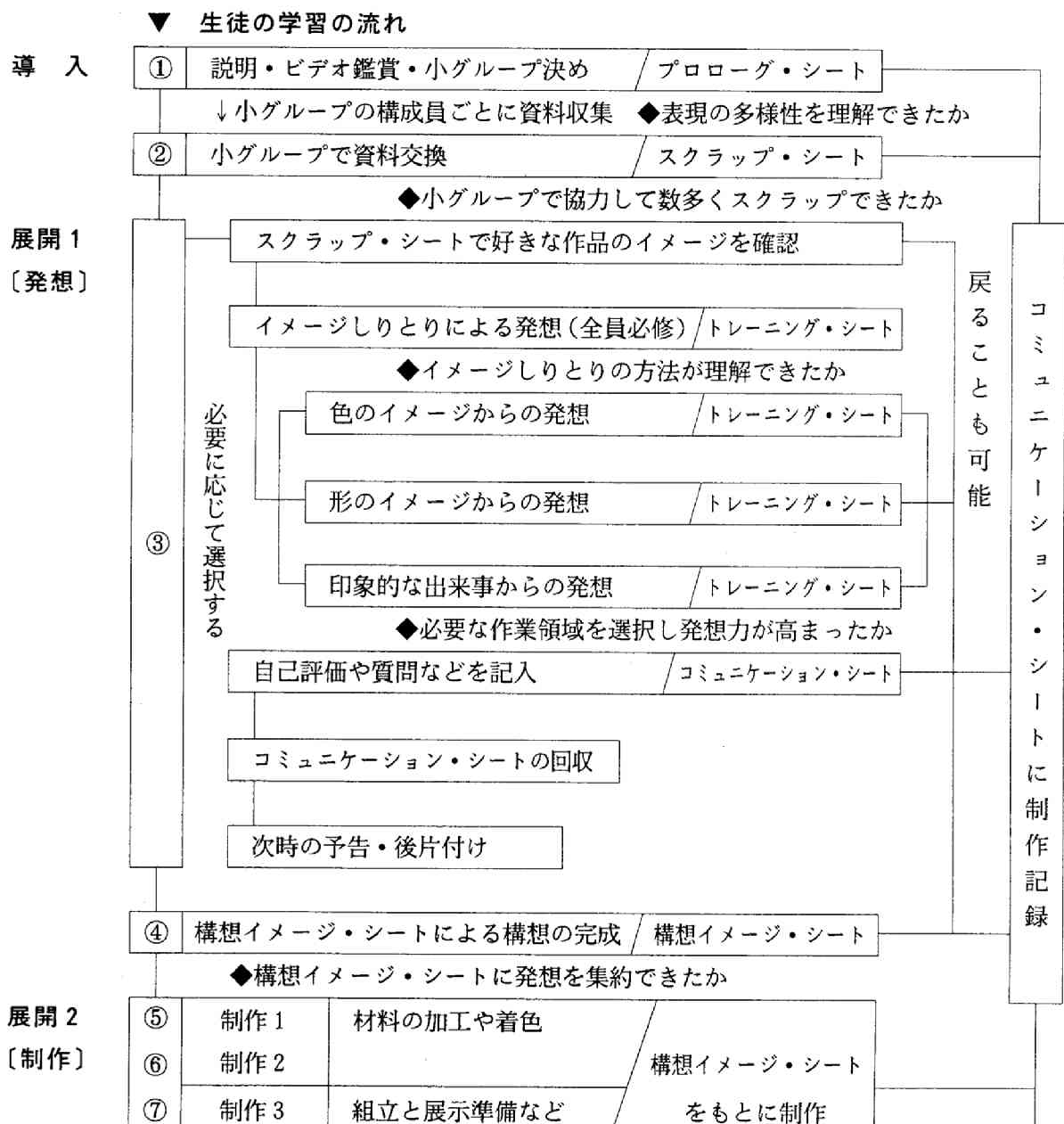
授業研究－(3) 「気分はトニー・クラッグ」

－現代美術の手法を通して、廃材に新しい命を吹き込もう－

(1) 指導のねらい

- ① 現代美術に親しみ、表現の多様性を理解させる。
- ② 小グループで資料を収集させることで、主体的に授業に参加する意欲を育てる。
- ③ ワークシートを十分に活用させることで、発想力を高める。
- ④ コンセプチュアル・アートの手法を取り入れ、作品に新しい価値を見いださせる。
- ⑤ 小グループで作品をプレゼンテーションさせ、友達や自分の作品のよさを見つけさせる。

(2) 展開例 (全9時間：展開1の発想部分を重視) ○…時間目 ◆…教師の評価の視点



⑧ 制作4

◆新しい概念を与えることができたか：美しさ（品位）を保っているか

まとめ

⑨ 各グループごとにプレゼンテーション
作品展示・鑑賞・まとめ

コミュニケーション・シート

◆協力して発表できたか：友達の作品のよさにも気付けたか

ワクワク・シート例（6種で1組内4種）

プロローグ・シート

スクラップ・シート

「プロローグ・シート」
— 発表の準備 —

① 発表の準備

② 発表の準備

③ 発表の準備

④ 発表の準備

⑤ 発表の準備

⑥ 発表の準備

⑦ 発表の準備

⑧ 発表の準備

⑨ 発表の準備

⑩ 発表の準備

⑪ 発表の準備

⑫ 発表の準備

⑬ 発表の準備

⑭ 発表の準備

⑮ 発表の準備

⑯ 発表の準備

⑰ 発表の準備

⑱ 発表の準備

⑲ 発表の準備

⑳ 発表の準備

㉑ 発表の準備

㉒ 発表の準備

㉓ 発表の準備

㉔ 発表の準備

㉕ 発表の準備

㉖ 発表の準備

㉗ 発表の準備

㉘ 発表の準備

㉙ 発表の準備

㉚ 発表の準備

㉛ 発表の準備

㉜ 発表の準備

㉝ 発表の準備

㉞ 発表の準備

㉟ 発表の準備

㊱ 発表の準備

㊲ 発表の準備

㊳ 発表の準備

㊴ 発表の準備

㊵ 発表の準備

㊶ 発表の準備

㊷ 発表の準備

㊸ 発表の準備

㊹ 発表の準備

㊺ 発表の準備

㊻ 発表の準備

㊼ 発表の準備

㊽ 発表の準備

㊾ 発表の準備

㊿ 発表の準備

「スクラップ・シート」
— 発表の準備 —

① 発表の準備

② 発表の準備

③ 発表の準備

④ 発表の準備

⑤ 発表の準備

⑥ 発表の準備

⑦ 発表の準備

⑧ 発表の準備

⑨ 発表の準備

⑩ 発表の準備

⑪ 発表の準備

⑫ 発表の準備

⑬ 発表の準備

⑭ 発表の準備

⑮ 発表の準備

⑯ 発表の準備

⑰ 発表の準備

⑱ 発表の準備

⑲ 発表の準備

⑳ 発表の準備

㉑ 発表の準備

㉒ 発表の準備

㉓ 発表の準備

㉔ 発表の準備

㉕ 発表の準備

㉖ 発表の準備

㉗ 発表の準備

㉘ 発表の準備

㉙ 発表の準備

㉚ 発表の準備

㉛ 発表の準備

㉜ 発表の準備

㉝ 発表の準備

㉞ 発表の準備

㉟ 発表の準備

㊱ 発表の準備

㊲ 発表の準備

㊳ 発表の準備

㊴ 発表の準備

㊵ 発表の準備

㊶ 発表の準備

㊷ 発表の準備

㊸ 発表の準備

㊹ 発表の準備

㊺ 発表の準備

㊻ 発表の準備

㊼ 発表の準備

㊽ 発表の準備

㊾ 発表の準備

㊿ 発表の準備

トレーニング・シート

コミュニケーション・シート

「トレーニング・シート」
— トレーニング —

① トレーニング

② トレーニング

③ トレーニング

④ トレーニング

⑤ トレーニング

⑥ トレーニング

⑦ トレーニング

⑧ トレーニング

⑨ トレーニング

⑩ トレーニング

⑪ トレーニング

⑫ トレーニング

⑬ トレーニング

⑭ トレーニング

⑮ トレーニング

⑯ トレーニング

⑰ トレーニング

⑱ トレーニング

⑲ トレーニング

⑳ トレーニング

㉑ トレーニング

㉒ トレーニング

㉓ トレーニング

㉔ トレーニング

㉕ トレーニング

㉖ トレーニング

㉗ トレーニング

㉘ トレーニング

㉙ トレーニング

㉚ トレーニング

㉛ トレーニング

㉜ トレーニング

㉝ トレーニング

㉞ トレーニング

㉟ トレーニング

㊱ トレーニング

㊲ トレーニング

㊳ トレーニング

㊴ トレーニング

㊵ トレーニング

㊶ トレーニング

㊷ トレーニング

㊸ トレーニング

㊹ トレーニング

㊺ トレーニング

㊻ トレーニング

㊼ トレーニング

㊽ トレーニング

㊾ トレーニング

㊿ トレーニング

「コミュニケーション・シート」
— コミュニケーション —

① コミュニケーション

② コミュニケーション

③ コミュニケーション

④ コミュニケーション

⑤ コミュニケーション

⑥ コミュニケーション

⑦ コミュニケーション

⑧ コミュニケーション

⑨ コミュニケーション

⑩ コミュニケーション

⑪ コミュニケーション

⑫ コミュニケーション

⑬ コミュニケーション

⑭ コミュニケーション

⑮ コミュニケーション

⑯ コミュニケーション

⑰ コミュニケーション

⑱ コミュニケーション

⑲ コミュニケーション

⑳ コミュニケーション

㉑ コミュニケーション

㉒ コミュニケーション

㉓ コミュニケーション

㉔ コミュニケーション

㉕ コミュニケーション

㉖ コミュニケーション

㉗ コミュニケーション

㉘ コミュニケーション

㉙ コミュニケーション

㉚ コミュニケーション

㉛ コミュニケーション

㉜ コミュニケーション

㉝ コミュニケーション

㉞ コミュニケーション

㉟ コミュニケーション

㊱ コミュニケーション

㊲ コミュニケーション

㊳ コミュニケーション

㊴ コミュニケーション

㊵ コミュニケーション

㊶ コミュニケーション

㊷ コミュニケーション

㊸ コミュニケーション

㊹ コミュニケーション

㊺ コミュニケーション

㊻ コミュニケーション

㊼ コミュニケーション

㊽ コミュニケーション

㊾ コミュニケーション

㊿ コミュニケーション

(3) 成果と課題

小グループで資料をスクラップさせたことなど、主体的に楽しく授業に参加する意欲を高めるのに十分であった。また、アイデアがすんなり浮かばない生徒のうち41%が、ワークシートを使用したことで、発想が浮かぶようになったと回答している。楽しかった、やる気が出てきたと答えた生徒は、共に全体の80%を超える結果となった。今後の課題は、ワークシートの発展性や汎用性を探ることと、使用しても発想が浮かばない生徒への個別指導である。

授業研究－(4) 「点描による想像画」

(1) 指導のねらい

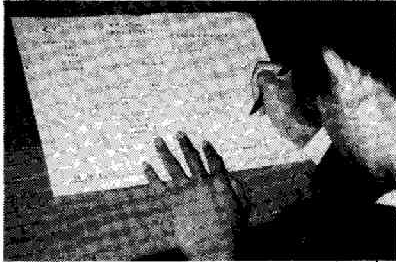
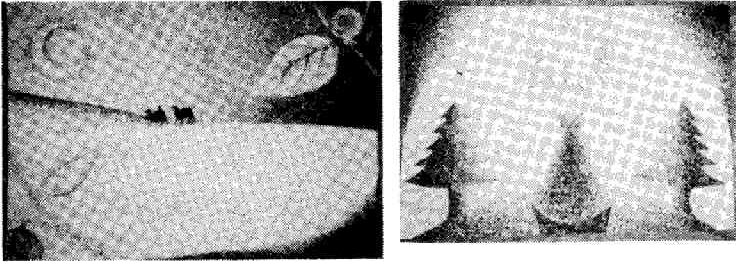
独創的な発想といっても無から突然にあるイメージが出てくるわけではない。過去の経験をもとに発展させていくことがほとんどである。特に成長過程にある中学生にとっては、ある感動（刺激）を受け、そこが出発点となり、表現することが造形活動の基本となる。

今回は生徒の個性を刺激をし、個々のもつイメージが豊かになるような授業を目指したい。そこで、次のねらいのもとに、授業研究を行うことにした。

- ① ワークシートを使い、発想・構想の手がかりとなるようにする。
- ② 生徒も教師も技術面にとらわれずに発想段階に集中できるように、教材は単純かつ仕上がりに満足できる点描画とする。
- ③ 想像画といっても全く自由にとすると、かえって範囲が広がり過ぎて、自分の中でしぼり込むのに苦勞する場合がある。よって課題を狭め、ある程度限定した課題を設定することとした。

(2) 展開例

	授業の流れ	指導上の留意点
導入 2時間	・想像画・点描画について説明する。 ・ビデオ・参考作品を鑑賞する。 ・資料を探す。	・心の中のイメージを描くとはどういうことか考えさせる。 ・感動や刺激を自分なりに受け止め表現する。 ・点描画について技法と表現効果を説明する。 ・ピカソによるゲルニカのビデオを見せ、作家の内面と作品が出来上がるまでを自分なりに考えさせる。 ・他の作品（シャガール・ミロ・マグリット・ダリなど）を鑑賞し想像画への興味・関心を高める。 ・点描による作品・モノトーンの作品を見せ、表現する意欲を高める。 ・自分が感動した本、イメージにちかい写真などの資料を集める。

展 開 6 時間	・ワークシートを使った発想・構想	・発想の手掛かり、きっかけとする。 ・自らの発想を膨ませたり、しぼり込んだり、ねらいを明確にする。 ・発想の段階に応じて個別指導し、ワークシートを見ながら助言していく。
	 ・アイデアスケッチをする ・下絵を書く ・制作	 * イメージがわいている生徒はワークシートを使わず先へ進ませる。後で発想の道筋をたどる。 ・クロッキー帳にラフスケッチをする。(何枚か描く) ・何枚かのラフスケッチの中から選び、主題をおさえ、点描の効果を考えながら描く。 ・モノトーンの点描のため鉛筆で陰影をつける。 ・B 5 サイズの画用紙に下絵をもとに鉛筆で当たりをつけ、サインペンで点描する。 (生徒の希望によっては画用紙に色をうすくつける) ・全体のバランスを見ながら制作を進める。 ・黒色の台紙をつけて完成。
まとめ	・自己評価・クラス鑑賞	・自分のねらい・意識した所・感想などを書く。 ・他の生徒の作品を鑑賞し、感想を話し合う。 (発想に重点をおいた意見をすいあげるようにする)

(3) 成果と課題

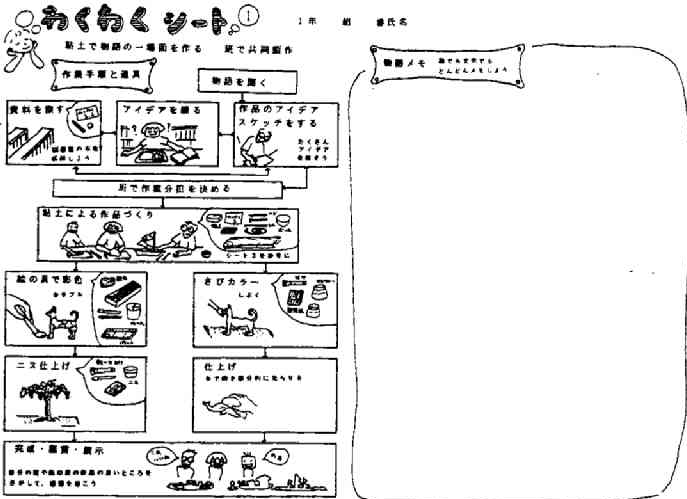
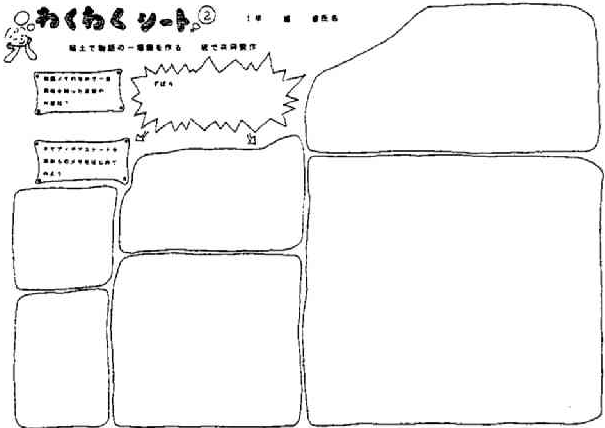
発想が出にくい生徒にはワークシートによりイメージを整理し、ねらいがしぼり込みやすくなった。最初から発想イメージをもっていた生徒には必要ない部分もあったが、ひとつの取っかかりとなった。点描という制作の積み重ねにより表現も深まり、仕上がりも密度のあるものになり、生徒の中に満足感が残った。

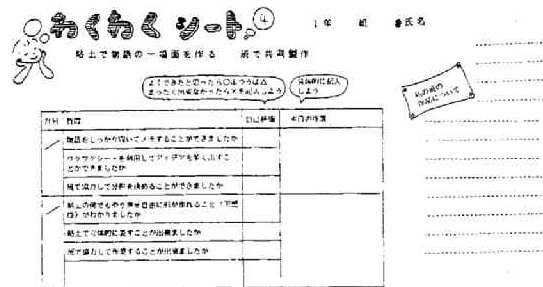
授業研究-(5) 「粘土による共同制作—物語の一場面をつくる」

(1) 指導のねらい

- ① ワークシートを使うことによりイメージしたことを計画的に作品に生かすことができるようにする。
- ② 素材のもつ特性を理解し、立体的に表現させるようにする。
- ③ ワークシートを使うことにより、制作の過程を記録させ完成したときの充実感をさらに高めるようにする。

(2) 展開例

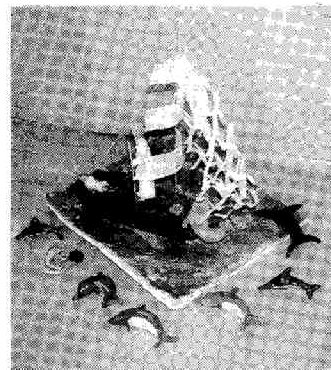
	授業の流れ	指導上の留意点
導入	- 制作の手順を説明する。 - 物語を聞いてメモする。 	ワークシートの利用法について説明する。
展開	- アイデアスケッチ - アイデアスケッチをもとに構想を練る。 - 班でイメージを統一し作業を分担する。 - 材料、制作方法を工夫し制作する（粘土、ベニヤ板、針金、糸等）。 - 着色する。	



・毎時間ごとにワークシートに記入し提出させる。

まとめ

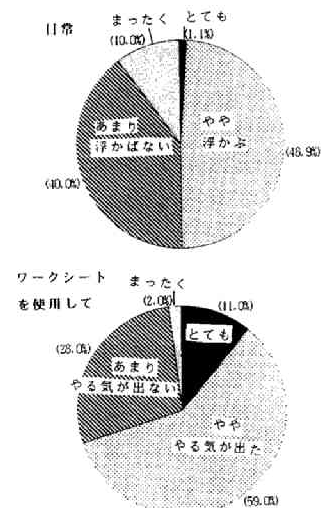
- ・完成作品の感想を書く。
- ・作品を展示し鑑賞する。



(3) 学習の成果と課題

ワークシートに関するアンケート結果をみると「アイデアがすぐに浮かびますか」の問に対してワークシートを使用したことで「とても浮かぶ」と答えた生徒が1%から11%に増え、発想を引き出す手掛りとなった。他の質問にも約70%の生徒が効果を感じていると答えている。(グラフ参照)

しかし、今回のワークシートでは美術をもっとも苦手と感じている生徒には効果が得られなかった場合もあった。今後シートを考える場合、さらに生徒が自由に進度を変更できる要素も大切である。



IV 授業テーマ 2 「生徒のコミュニケーションを活発にする鑑賞の授業の工夫」



1 研究テーマ設定の理由

これまでの鑑賞の授業では、知識理解が、教師主導型の授業になりがちであった。また生徒が意欲をもって活動ができる場面も少なかった。鑑賞の授業で大切なことは、生徒が一人一人が美術作品のよさや美しさ、おもしろさを自分の感性で感じとり、自分の味わった感動や課題をお互いに表現しあう中で、友達など他者と共感することが重要であるとする。そこで本研究においては、他者との理解し合うためのコミュニケーションに視点をあて研究を進めることとした。

2 研究の仮説

- (1) 美術館などで実際に本物の美術作品を鑑賞することにより、生徒は意欲をもって作品を鑑賞するようになる。
- (2) 生徒が自ら鑑賞した成果を発表しやすい方法で、発表させることにより授業の充実感が高まる。
- (3) 言語以外にも書く、描く、踊る、歌うなど様々なものを設定することで、より多くの鑑賞の方法が期待できる。

3 仮説検証の方法

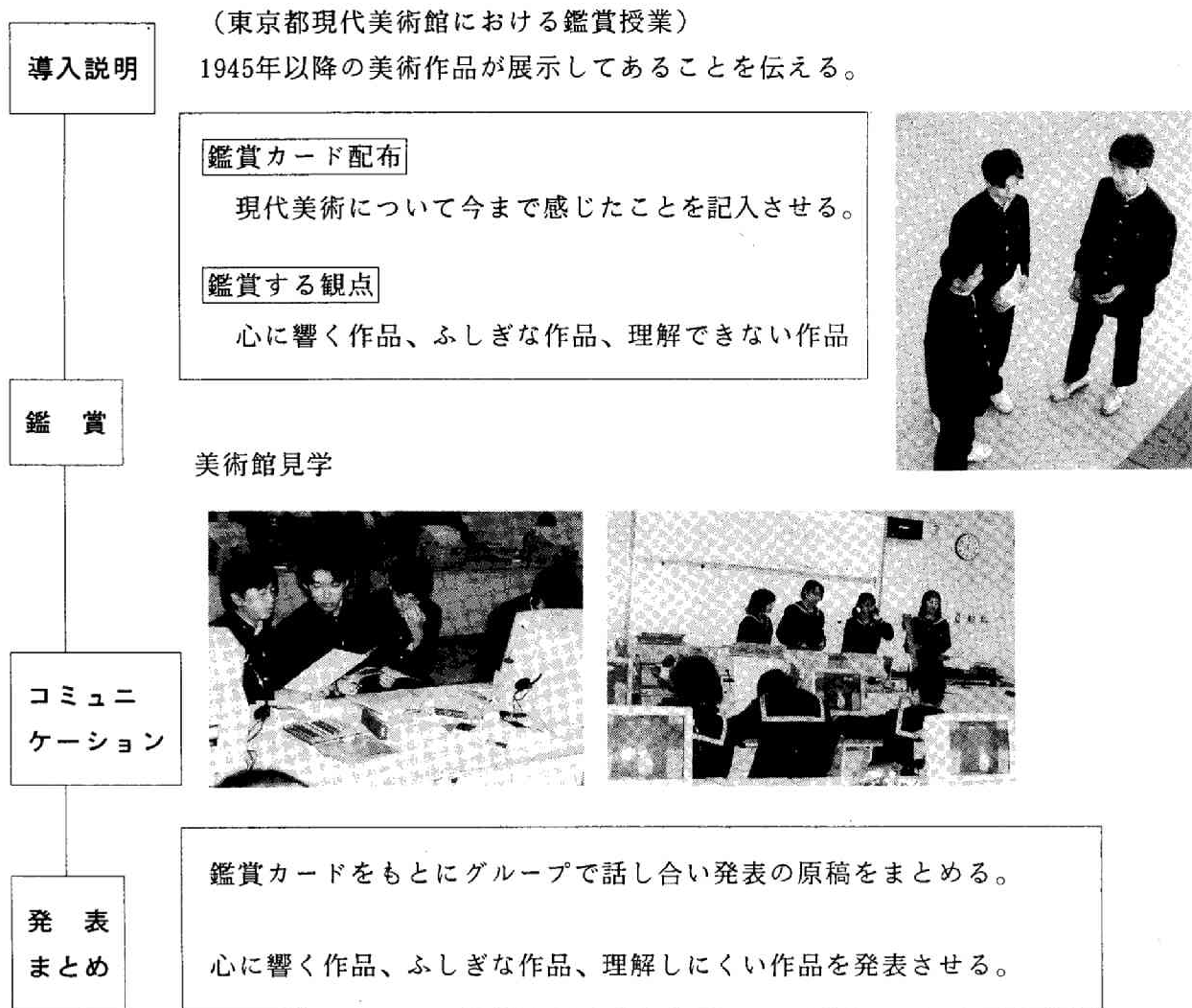
生徒のコミュニケーションを一人が何回発表したか、どのように伝えたかなどに分けて、鑑賞カードの内容やグループ活動、鑑賞会での発表の様子から検証する。

授業研究－(1) 「現代美術館に行こう」

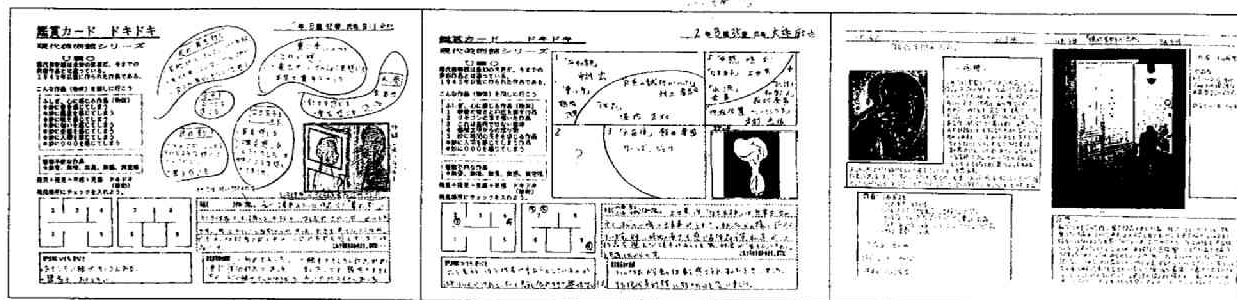
(1) 指導のねらい

- ① 現代美術館を身近なものと感じさせる。
- ② 現代美術の作品が多様な表現であることに気付かせる。
- ③ 鑑賞の成果を様々な方法で発表させ、友達に伝えようとする態度を育てる。

(2) 展開例



鑑賞カード1 (1年の観点)	鑑賞カード2 (2年の観点)	鑑賞カード3 (3年の観点)
ア 音を感じてしまう作品	ア 戦後の暗さと抑圧を表す作品	ア 作品の第一印象
イ 温度を感じてしまう作品	イ 今までにない表現を求めた物	イ 他の作品を鑑賞
ウ 匂いを感じてしまう作品	ウ これは芸術ではない物	ウ 作者について
エ 人間生活を感じてしまう作品	エ 機械文明の贈り物	エ 時代性について
オ 理解しにくい作品	オ この部屋はなぜ暗いのか	オ 新しい考え、表現



(3) 成果と課題

- ① 鑑賞の観点を提示することで、作品をよく観察し味わおうとする意欲を引き出した。
- ② 現代美術に対して生徒の不安感を減らし、美術館を身近なものと感じさせることができた。
- ③ 鑑賞カードの工夫やグループ発表を取り入れることにより、生徒間のコミュニケーションが活発となり主体的に作品と接するようになった。
- ④ 発表については、自分の考えをうまくまとめることができず、コミュニケーションの内容の高まりが見られない生徒もでてきた。

授業研究－(2) 「美術館で鑑賞した作品を再現しよう」 ～グループ模写～

(1) 指導のねらい

- ① グループ模写を通じて鑑賞の授業でのコミュニケーションを活発にさせる。
- ② 授業の環境や形態を変える事により鑑賞に対する興味関心を高める。
- ③ 作品を鑑賞する際の多様な鑑賞の観点を理解させる。

(2) 展開例 〈3年選択授業・全7時間〉

授業の内容

コミュニケーションの様子

① 単元の説明〈1時間〉

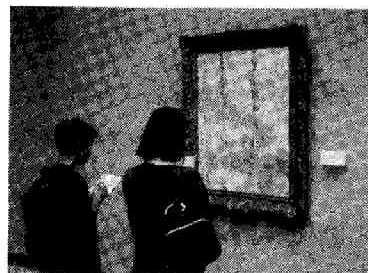
- ・鑑賞とは何か考える
- ・作品を鑑賞する際の視点を学ぶ
(主題、色彩、構図、等)

- ・美術鑑賞に興味関心のない生徒
クラスの約30% (事前アンケートより)

② 美術館鑑賞〈1時間〉

- ・国立西洋美術館(上野)でモネの
「陽のあたるポプラ並木」を鑑賞
- ・鑑賞カードに具体的な言葉を用いて感想を書く

- ・小グループに分かれて感想を語り合いながら館内を見てまわる



〈興味深げに鑑賞中〉

③ 模写のグループ分け〈1時間〉

- ・モネの絵の感想を發表しあう
- ・鑑賞の観点が同じものが集まり模写のグループをつくる

- ・各自の感想を書いたカードを見てグループ分けの提案をする。
- ・「鮮やかな色彩」班、「明るい色彩」班、「構図」班、「表現」班、「印象」班の5班に分かれる



〈カードでグループ分け

④ グループ模写の制作〈3時間〉

- ・複製画や資料等を見ずに第一印象をもとに模写をする。
- ・班内でコミュニケーションをとりながら共同制作をする
- ・画材や表現・技法は班で統一したイメージを表現しやすいものを選ぶ

- ・「空の色はもっと明るい青だよ。」等、活発に話し合いながら模写の制作をすすめる



〈にぎやかな制作〉

⑤ 作品の鑑賞〈1時間〉

- ・出来上がった作品を鑑賞しあう

- ・班として一番表現したかった点を発表する
- ・他の班の作品に対する感想を述べる
- ・「美術鑑賞」を楽しんだ生徒クラスの約90%（事後アンケート）

(3) 成果と課題

- 鑑賞の観点が同じものが集まった小グループによる共同制作（模写）を行う事により生徒の発言回数は従来の鑑賞授業よりも増大し、発言の内容も意欲的なもの、よく考えたものが多くなり、コミュニケーションを活発にさせるという点ではかなりの成果が上がった。
- 本物の作品に触れる事により自発的に作品について調べたり、他の美術館へ友人と行くようになるなど鑑賞に対する興味関心が高まった。
- 共同制作のため個人の感じた事を全て作品中に表現する事がむずかしい場面もあった。これをどう克服していくかが今後の課題である。



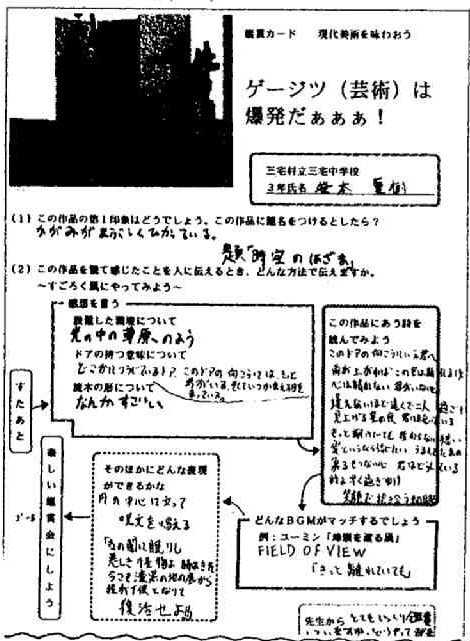
〈「構図班」の完成作品〉

授業研究－(3) 「校外に設置した現代美術作品を鑑賞しよう」

(1) 指導のねらい

- ① 海岸に設置した現代美術の作品の鑑賞を通して、机上で制作した作品との違いを感じとりながら美術表現に対する視野を広げる。
- ② 自分の感じたことを伝える方法を工夫しながら発表し、お互いの発表を認めあう態度を育成する。

(2) 展開例（８時間扱い）

指導の流れ ○は時数	学 習 活 動 ○教師の支援 ☆評価の観点	コミュニケーションの様子や内容
導 入 ①	V Y Rにて現代美術の作品を鑑賞する。 ○もし海岸にあったらどうかを想像しカードに記入させる ☆カードに丁寧に記入できたか	V T R鑑賞中の発言 何これ？面白いじゃない、よくわかんない。etc カードの内容 異次元みたい、迫力がある、シュールだ！etc
制 作 ②～④	実際にある現代美術の作品を参考にして共同制作をする。 ○流木の面白い形を利用するなど作業の効率化を図る。 ☆協力して制作できたか。	
鑑賞準備⑤	中庭に作品を設置し鑑賞カードに記入し発表の準備をする。 ○観点やコミュニケーションの方法を設定したカードを使用する。 ☆カードに記入しながら発表の方法を考えたか。	
設 置 ⑥	海岸に設置する。	
鑑賞発表会⑦	第一印象を述べる。 ○一言でも良いから気楽に述べ発表に向けて雰囲気のを和らげる。 感じたことを発表する。 ○単に順番通りではなく生徒の反応をみておこなう。 ☆感じたことを工夫して伝え	鑑賞カード やっぱり不思議でも妙に海岸にマッチしている、波の音がいい、時間が止まった感じ、流木が生きている、ミステリー！儀式の跡みたい、摩か不思議・・・etc 鏡に空が映っていて別の世界みたい（BGMをかけながら述べる）、流木を持ち「古の闇に眠りし悪しき怪物よ、時はきた、今こそ漆黒の地の底から我が下僕となりて復

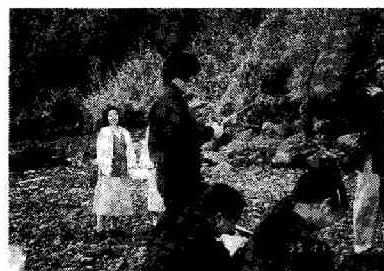
ようとしたか、友達の発表をよく聞けたか。



まとめ⑧

現代美術を振り返り感想を述べあう

活せよ！」と唱える（おおっと皆から大喝采が起きる）、自作の詩「悲しいこと、つらいことすべての過去にさようなら、今別れを告げ扉を開ける」を読む（大拍手）、聴覚（石などをたたいて）で感じたことを伝える（大拍手）、この扉から悪魔が出てきそうといって実際に悪魔の面をかぶる・・・etc



発表の様子

(3) 成果と課題

鑑賞の観点や発表の内容を具体的に示したことで一度も発言しない生徒はなく、コミュニケーションの量は確実に増え、その内容もことばで表せないことを何とか伝えようと自作の詩や音、行動などで表現するなどの工夫がみられた。今後は感じたことを伝えあう体験をさらに積み重ね、鑑賞の能力を高めていきたい。



V 研究テーマー 3 「自己評価カードを使った励ましの指導の工夫」



1. 研究テーマ設定の理由

今までの美術の授業では、作品としての完成度を重視する傾向が強く、一人一人の生徒が制作過程でも課題や悩みに教師が的確にこたえられず、そのことが美術に対しての苦手意識となるのではないかと考えた。教師が生徒の課題や悩みを的確に把握するには、自己評価カードを利用し、一人一人の生徒に応じた励ましの指導を充実する必要があると考えた。そこで本研究においては、生徒一人一人のもつ課題や悩みを的確に把握し、それにこたえる自己評価カードのあり方について研究することにした。

2. 研究の仮説

- (1) 自己評価カードを有効に使うことにより、生徒が自分自身をより深く見つめ、自分のよさを見だし、意欲を高めたり、多様な表現を引き出すきっかけとすることができる。
- (2) 自己評価カードの記入を繰り返すことによって、生徒は自分自身の中に今まで気付かなかった長所を見いだしたり、どのような方向で制作を進ませればよいのか明らかにすることができる。

3. 仮説検証の方法

■ クロッキーのように、繰り返し同じ課題に取り組む場合

①授業を重ねるごとにその内容のレベルを上げていく形式。②毎授業同じ内容で、一生徒の変容により記入される項目が変わっていく形式、の2種類のカードのどちらかを用意し、どちらの評価カードによっても、同じ課題に繰り返し取り組みながら、制作の姿勢や自己評価および、その生徒の作品の変容を見ることで仮説の検証ができる。

■ いくつかの制作行程を経て作品完成に至る課題に取り組む場合

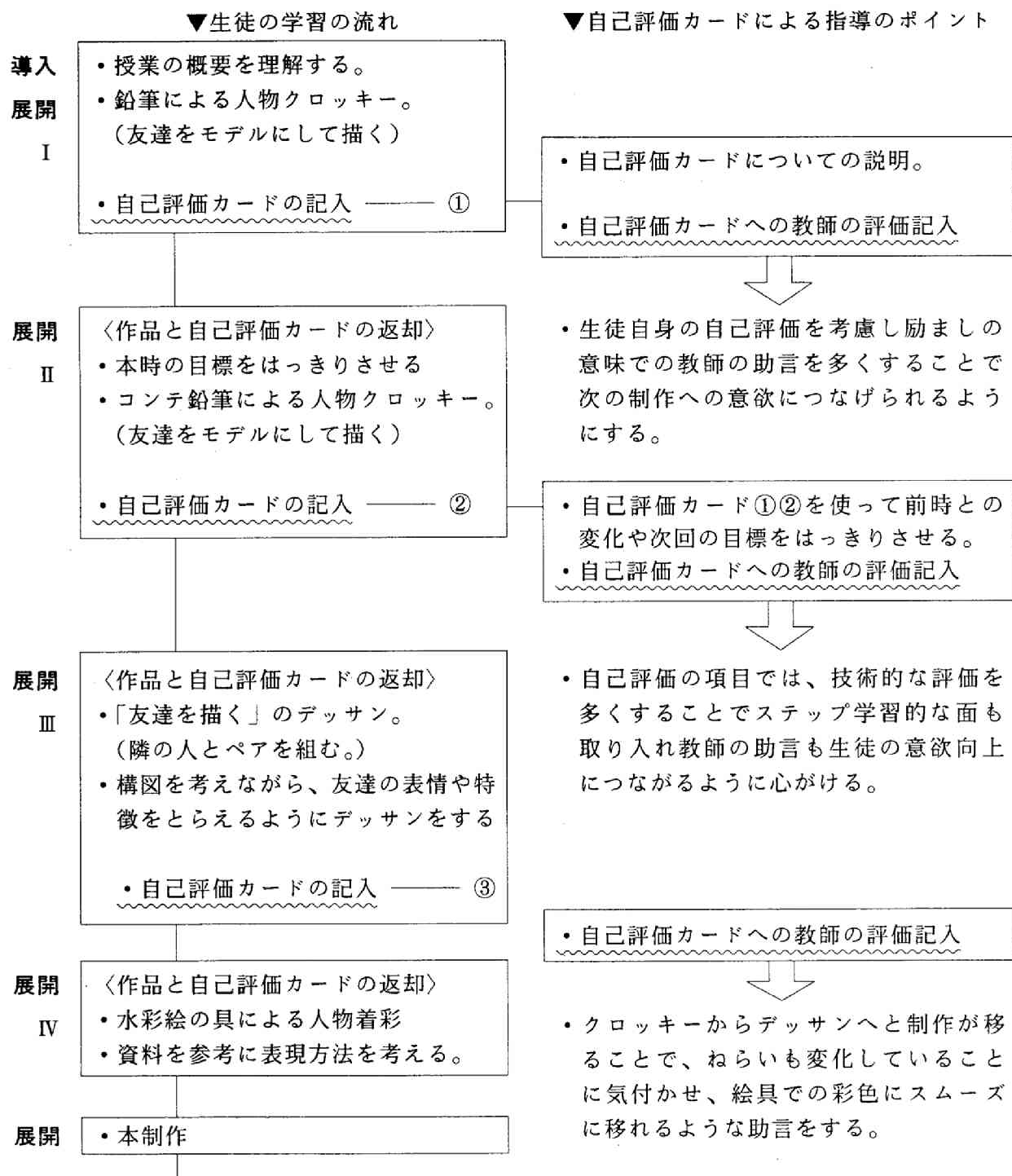
各行程ごと、または授業ごとに、生徒の取り組みと、その時点での作品に対する自己評価とそれに対する教師のアドバイスを積み重ねていき、その評価カードの内容の変容から仮説の検証ができる。

授業研究－1 「人物画・クロッキー」での自己評価カードの活用

(1) 指導のねらい

- ① 「自己評価カード」を使うことで、自分のよさを発見し、自己表現の工夫をさせる。
- ② 絵画表現に関心をもち、意欲的に制作・表現に取り組ませる。

(2) 展開例



整理

〈合同鑑賞会を行う〉

- それぞれの作品のよさを知る。
- いろいろな表現方法を知る。

• まとめ自己評価カードの記入 — ④

- 完成作品や自己評価カードなどを通して本題材の評価を行なう。



- 自己評価カード④については「人物画」の制作過程全体を通じた自己評価を行う。これは次の題材の意識付けでもある。

資料-①

自己評価カード 『クロッキー』 No. 1

1、今日のクロッキーをふり返って考えてみましょう。(下の記号をつけてみよう)

◎・とても良くてきた ○・良くてきた △・ふつう ▲・あともう一歩だ

①	絵が完成しました。	
②	モデルを良く観察しました。(じっくり見ましたか)	
③	モデルに似ていました。(特徴をあらわせたか)	
④	描いていて楽しかった。	
⑤	自分の絵に集中して描きました。	
⑥	構図(画面への絵の入れ方)を考えて描きました。	
⑦	線を工夫して描きました。(線の強弱)	
⑧	大きさのことを考えて描きました。	
⑨	形を正確に描きました。	
⑩	自分の絵に満足できましたか。	

<以下略>

資料-②

自己評価カード 『クロッキー』 No. 2

1、今日のクロッキーをふり返って考えてみましょう。(下の記号をつけてみよう)

◎・とても良くてきた ○・良くてきた △・ふつう ▲・あともう一歩だ

①	自分の目標を意識して描きました。	
②	全体のバランスが取れました。(頭、体、手、足の大きさ)	
③	モデルをじっくり観察して描きました。	
④	立体感が描けました。	
⑤	コンテ鉛筆をうまく使えました。	
⑥	モデルの特徴をよく表現できました。	
⑦	構図(画面への絵の入れ方)を考えて描きました。	
⑧	線の表現を工夫して描きました。(線の強弱)	
⑨	一本一本の線に心をこめて描きました。	
⑩	自分の絵に満足できましたか。	

<以下略>



(3) 成果と課題

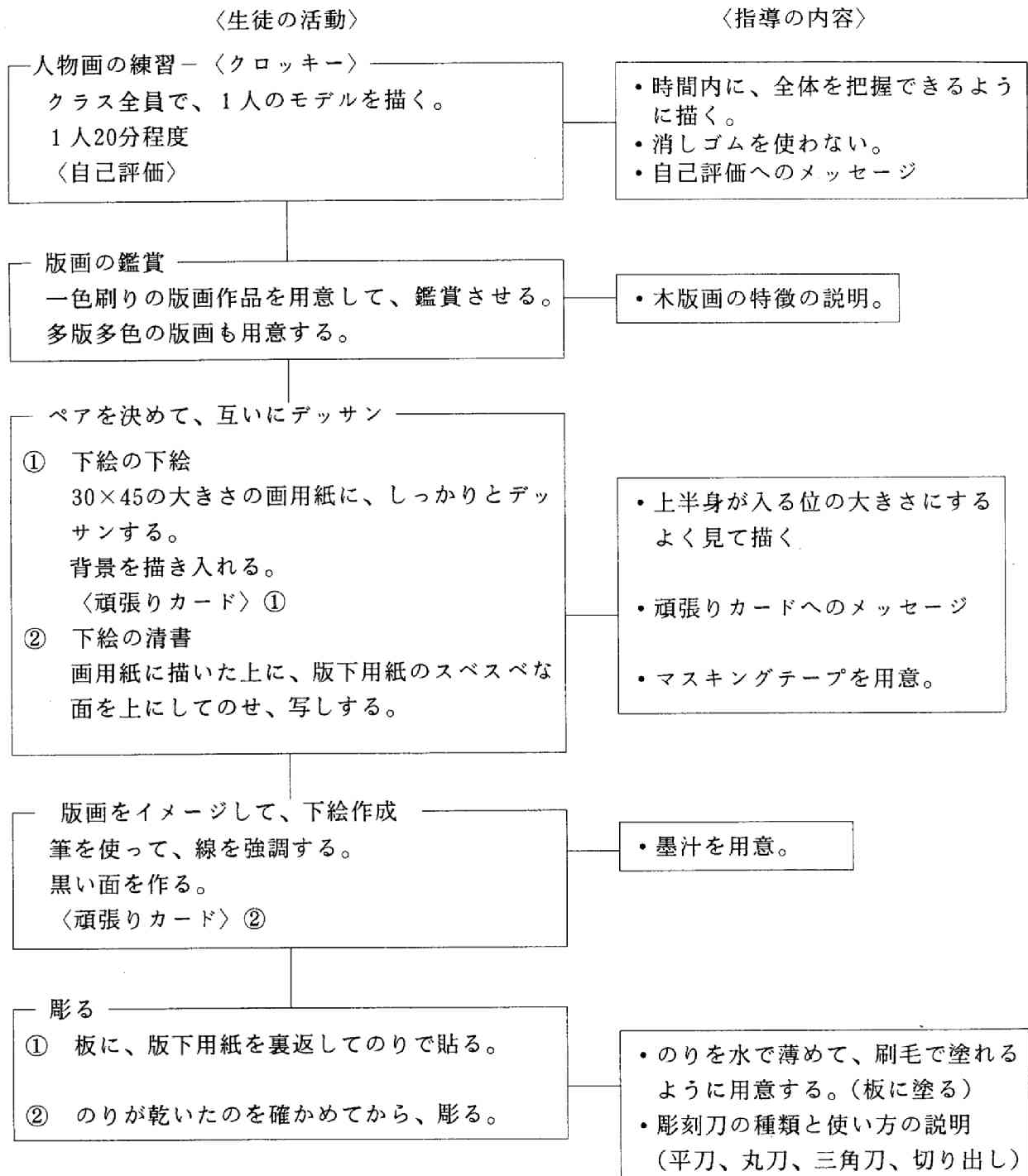
美術が苦手な生徒にとって、技術的な面だけで評価することは制作意欲の低下につながる。生徒の自己評価を受けて、教師が励ましの指導・助言を行うことで、生徒自身が自分の良さに気付き、自信をもって描いていくようになる。しかし、課題としては技能的にレベルの高い生徒や、反対に理解するのが精一杯の生徒については、短期間ではなかなか効果が上がらなかった。その焦点の絞り方にまだ研究の必要がある。

授業研究－2 木版画「友達を描く」

(1) 指導のねらい

- ① 頑張りカード（自己評価カード）を利用し、よりよい作品作りに向けて努力させる。
- ② 友達の様子をよく観察させ、人物の表現に興味をもって取り組ませる。
- ③ 木版画の特徴を理解し、道具の正しい使い方を身に付けさせる。

(2) 展開例



彫る

- ① 彫り終わったらローラーでインクをつけて、版画用和紙にバレンを使って刷る。
- ② 試し刷りをしてみて足りないところを彫る。
- ③ 最終刷り。

〈頑張りカード〉③

- ・版画紙を湿らせて、新聞紙の間にはさんでおく。
- ・よりよい物を作る。
- ・きれいに刷るよう心掛ける。

(3) 成果と課題

生徒の意欲を引き出すために、授業中での励ましの言葉が必要なのは当然であるが、すべての生徒に十分に伝わっているかどうかを判断することは難しい。そこに、自己評価カードを使って、必ず教師からのメッセージを加えることで、自分の課題とともに、いくらかのよいところを見つけてもらえる喜びをもてるものと確信した。

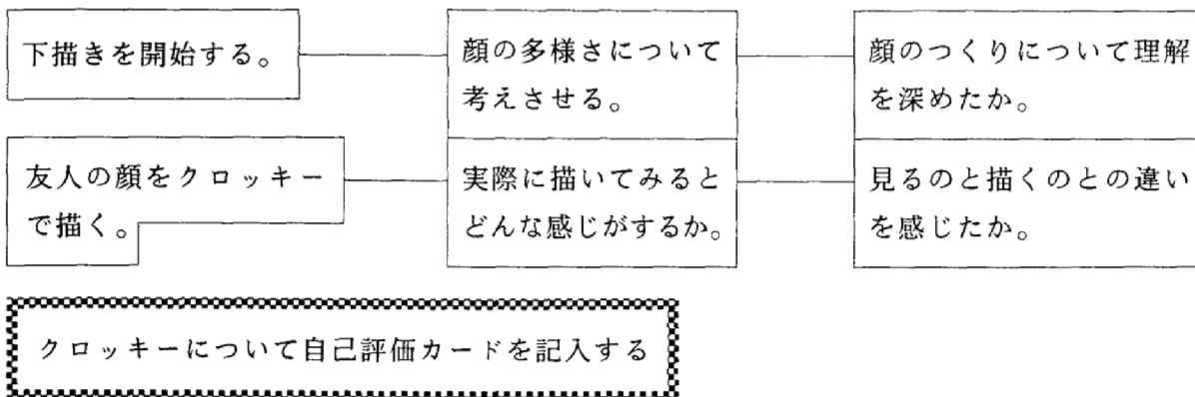
頑張りカード 1	頑張りカード 2	頑張りカード 3
★できた下駄をみて、自分の彫じたことに あう項目に○をつけよう。 得意項目 ・画面の中に、大きく彫けた ・表情がでている ・体の大きさのバランスがよかった ・少しは彫けている ・口をうまく彫けた ・目をうまく彫けた ・髪の毛をうまく彫けた ・顔の形をうまく彫けた ・髪をうまく彫けた ・髪をうまくつづられた ・得意をしっかりと彫けた ・彫しかったが、一生懸命にやった 上の項目以外で感じたことを記入しよう。	★彫をなくして、できた顔の下駄を 見て、自分の彫じた事や考えたこと にあう項目に○をつけ、記入しよう。 得意項目 ・思い通りによくできた ・全体の位置のバランスを考えた ・彫る時のことを考えて彫を入れた ・よくできたところがある ・（感想） ・いい顔になりそうだと思う ・失敗したところがある ・（感想） ・ていねいに彫つけた 上の項目以外で感じたことを記入しよう。	★出来上がった顔を見て、評価しよう。 また、顔の表情を通して与える項目に ○をつけよう。 得意項目 ・きれいに彫り上がった ・下駄の形より、いいものになった ・ていねいに彫つけた ・よく彫って彫ったものだ ・下駄のと真りに彫ることができた ・彫りあそを考えた彫つけた ・顔にいろいろな表情がある ・（感想） ・出来た顔に満足している ・得意をしっかりと彫つけた ・彫りあそを考えた彫つけた ・彫りあそを考えた彫つけた 顔の表情を通して、感じたことを記入しよう。

授業研究－3 「自己評価カードを使った人物画の授業」

(1) 指導のねらい

- ① 自己評価カードを使って自分の作品をふりかえりながら人物画を描く。
- ② カードに適切なアドバイスや励ましの言葉をいれながら、意欲をわきたたせる。
- ③ 自分の気付かなかった点に気付かせる。

(2) 展開例



下描きを開始する。

画面に上半身以上入れる
ポーズを工夫させる。

- 友達の雰囲気がつかめているか。
- 形の把握がほぼできたか。

下描きについてカードを記入する（2～3回）

下描きの完成

固有色を考えをすてさせ、
いろいろな色を発見させる
多少の失敗は気にしないで
人物の感じをつかむことを
重点におく

- ・自分の感じを大切にしてい
色がぬれたか。
- ・あきらめず、追求したか。
- ・仕上げの満足感があるか。

着彩する

着彩についてカードを記入する（４～５回）

着彩の完成

自分の絵についてうまくいったと思う点や反省点をカードを参考にしながら発表し合う。

- ・友人の意見、教師の意見が参考になったか。
- ・友人の作品のよさについて味わえたか。

鑑賞会

友人にもいろいろな意見を言ってもらおう。

感想をカードに記入する



カードの例

[illegible]

(3) 成果

- ・自己評価カードを使うことにより生徒が自分の制作過程をみつめるようになった。
- ・自己評価カードを通じて教師と生徒相互のコミュニケーションが増えた。